

「防災拠点 若葉台西小」

阪神大震災以来、日本の大丈夫神話もついにほころびを見せました。まさか大きな建物や高速道路が壊れるなんて、開発途上国か米国位のものと信じて疑いませんでした。

その後、関西では復旧に明け暮れ、今や備えは関西地方優位なのだそうです。



第一管理組合では自前で井戸を掘る計画も囁かれていましたが、その後どうなったでしょうか。

横浜市では、小学校を防災拠点として、発電機、簡易トイレ、乾パン3000食他非常食、エンジン付きカッター等の工具等が備蓄されています。発電機付き移動炊飯器は、米10kg(約100食分)を22分で炊きあげるそうです。宝の山も持ち腐れにならないよ

うに、使用訓練が各防災拠点で始まっています。説明書を読んだだけでは使う時にまごつきます。

尚、緊急水栓は西中・東中に有り、救急告示医療機関は、旭中央・鶴ヶ峰・上白根の各病院が指定されています。若葉台の団地自体が横浜市の「広域避難地域」になっています。家族で、避難場所は小学校と決めておくのが良いのではないのでしょうか。

では、活断層はどうでしょうか。専門家は航空写真での判断で立川活断層が横浜へ延びているらしいと見ていましたが、市の調査委員会(28棟の翠川教授も参加)の詳細な調査の結果(道路沿いに反射法で連続的に探査)若葉台方面には活断層は無いことが判りました。